

成形圖說

五穀部

十五十六

庫文閣内	
三三八函	三一六五架
九	五
架	冊
類	和書

庫文閣内	
一九六函	三一六五架
一	九
架	冊
類	和書

史一七五

内閣文庫	
番號	和 31165
冊數	15 (8)
函號	196 100



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

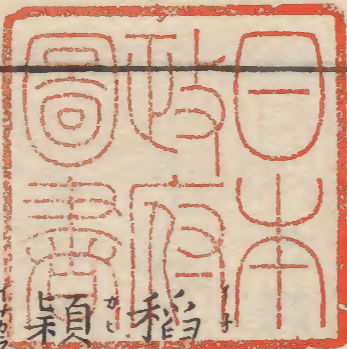
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



成形圖說卷之十五



目錄

附穗イナ相イナ

穎イナ芒イナ

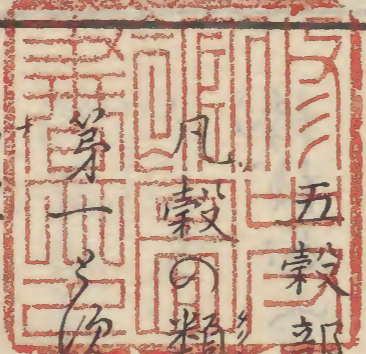
稈イナ結イナ

嘉禾イナ

成形圖說卷之十五

一

成形圖說卷之十五



五穀部類

凡穀の類甚夥一而して天下稻穀とて人民と育ふ乃

第一之次此のものは 皇國乃歸^ナ負^オ給^レい^ク天皇此御

名に^シと福穂の事と称奉^ルは斯瑞穂國と統御^スふ

と申^ス也古事記傳曰神津代乃御名に豊香節豊

買葉木國^{カヒハコクニ}お皆福よよと御名なる一香節ハ稻の

靡^{ナヒ}き世^セを^シ意豊買ハ豊穎^{トヨヒ}とて葉木國^{ハコクニ}はハビ^ハふ^ルこ

も^リう^ナな^リ意雲野^{ココロクモノ}ふ^とと^りめ^ク之美^ミ竹^{タケ}乃^ハ之美^ミとて福乃

ふ^さや^うの^よふ^とり^乃意^{ココロ}か^り又^{イッヒ}嚴^イ稻^{イナ}稻^イ飯^イ御^ミ食^ケ主^ヌな^と

成形圖說卷之十五

古今諸書と鈔録して参閱し便しと鄭玄月令
註に五穀ハ黍稷稻麥菽周禮注作黍稷麥稻穀梁傳に禾麻粟麥
豆素問真言論に麥黍稷稻豆趙註孟子朱熹註是に據る藏氣法時論
に麻麥稷黍豆五常政大論に麻稷麥稻豆王逸離騷註靈亦おれ
樞五味篇に麻麥稷米黃黍大豆周書に凡禾麥居東方黍
居南方稻居中央粟居西方菽居北方太平御覽范子計然
と引て五穀者東方多麥西方多麻北方多菽中央多禾以
上の書と所小異大同蓋必に根據ありとすへくは
東方に麥多り如きと其方位に泥て其実志り多にあ
次夏官職方氏云正東曰青州其穀宜稻麥今和蘭人我東

方の稻米と天下第一とりの産物と交易するの絶
た蓋麥ハ北方乃地に生次歐羅巴地方麥を以て常食と
し又三穀四種六穀七穀八穀九穀乃名負あり格物論云三穀者梁
稻菽是也四種者黍稷稻麥五穀者麻黍稷麥菽六穀者黍
稷梁麥苽稗是なり今按に三穀六穀ハ是周禮と出れ
而三穀四種に稻ありて五穀六穀に稻と黍と稷と
くハ亦失也とすも七穀者通雅に黍稷稻粱三麥菽又
八穀者星經に黍稷稻粱麻菽麥烏麻九穀者周禮に黍稷
秫稻麻大小豆大小麥一説に九穀無秫大麻而粱苽酉
陽雜俎に八黍稷稻粱三豆二麥と見えし羅存齋の爾
雅翼云古人説百穀以為粱者黍稷之總名稻者漑種之總
名菽者衆豆之總名三穀各二十種為六十蔬菜之屬助穀
各二十種凡為百穀然予以為穀之種類每物不下十數亦



何假蔬果而後為百耶按書彙典註穀非一種故曰百穀此說得之乎延喜祝詞式作物ツクモノと云ふ田野の百穀と云ふと谷川氏いつり○正安大嘗會遠江國池田里兼仲五くさのゆゑに壟た依田成作物の事考の里にや成ありし
南朝紀傳嘉吉三年癸亥三月二日雨五穀

伊禰古事記○
 伊禰即稻也

伊奈志禰以上書紀○並秋穗按古事記○水穗といふ
 伊禰志禰伊禰と通音秋穗按古事記○水穗といふ
 いし稲ハ水田いせりの穂いせりの穂いせりの穂いせり
 て又秋成の第一いせりの穂いせりの穂いせり
 の秋風いせりの穂いせりの穂いせりの穂いせり
 植し吾田乃面いせりの穂いせりの穂いせりの穂いせり

はお母とは父祖母はいふ及ぞす祖先と云ふかくいひ
 又母の事と御祖命と申せしは古事記にあり又母いひ
 切ちれハ遂に母やと申すは父の事か父の事か
 ありぬ夫の律子母根やと申すは父の事か父の事か
 ありぬ又犯やと申すは父の事か父の事か
 二神より人地生れ土根あり配違根のかく根と云ふ
 詞ありとて伊祿は事ある事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 もとも此の地府の第一百毅の長上と云ふ始毅の事
 とも水よりして種おろしつ棒ら其の日長く引し
 めの苗代小田り生れぬる深の音をわくし卯月花さく
 浪空ハとやりと梅多うと子居起四子のおしとて田
 もつとの少男女り袖ハ漕といともぬはさ其は田歌

おれよかやるといふこと若苗也君う為る方の毅
 とつとせとと子所といつと梅と云ハ秋のみり成ま
 つむの巻も本高き水月あけてる月地陰さか
 ときよゆとさ原河と城のあめ向股かくと深沼の程
 のむろ田うりみと率刈残といともあけさる面
 人の若とを癒し河と直さるし又時しはし門田
 のまけくそとあまの好さぬ香殖稲の花実をみて見
 るも程うらめづらさ若妹子り裾吹かへは秋風子涼
 しく程程おとつしは茶乃祖て茶乃娘の茶乃さるる魚
 しよのゆめを結いし雲の白むけ天波子かと疑もる

今と考^メ過^ル得^ル也^ト古^ノ君^トの^し秋^ノ田^ノ
と而^{サテ}悠^キ紀^キ之^レ齋^キ忌^キして主^キ基^キと濯^スと^スひ^ハ並^ト新^ラ見^ガ川^ガ
おて御^ミ襖^ソ被^ギち^ハい^ハ官司^ツと川^カ上^ハに^ハ臨^ミ潔^キ齋^キし致^シ齋^キ散^ル斎^キ
の儀式^ニあ^リと^シて^ハい^ハつ^テ大^ニ嘗^ヒ會^フ中^ハ京^ノ
ハ倍^ニ尼^ノの^ユ禁^ルれ^ル梵^ノ刹^ノの^カ鐘^ノ鼓^ヲと^ウち^ナら^ズと^シ止^ム
依^テ延^喜大^嘗式^曰令^シ所^司ト^定悠^紀主^基國^郡又^ト定^田及^齋
齋^場雜^色人^等凡^出御^前行^の猿^女御^巫中^臣齋^部佐^伯伴^造
造^{大臣}公^卿各^其職^掌り^夫木^集大^嘗會^と詠^傳り^る依^テ
夫^ガ代^ハ安^リ郡^の貢^{もの}の^斎場^の稻^穂搗^と初^クせ^む
しは稻^穂の^國郡^教所^{の中}より^ト定^むひ^るど^と中^に

頃^{より}悠^キ紀^ハ近^江國^主基^ハ丹^波備^中の^兩國^並に^用
ら^は當^夜成^り刻^{天子}廻^立殿^に御^しあ^らは^し是^君立^たる^は
ハ萬^蒼生^の為^{あり}新^稻既^に熟^{して}之^を神^祇祭^に
せ^らる^は年^穀の^恩澤^と報^ひの^儀也^乃地^育と^施あ^らは^し
と^也新^拾遺^集 伏^見天^皇の^大御^歌神^や其^の為^に
て^を以^てと^おと^ふ身^のの^あら^はし^て世^とに^行く^をさ^れハ
年^中の^祭紀^に孟^春止^月初^年祭^をと^て一^とや^し御^座
即位^{の後}幣^帛以^て諸^神に^奉ら^は祝^詞と^食國^{天下}之^政
依^テ所^聞食^ふと^わ食^國と^心と^者也^一也^也
稻^穂古^事記^に永^仁大^嘗會^中納^言俊^光と^らき^の十五
百^乃秋^のち^めり^田中^に稻^のわ^さ穂^とと^つむ

荒稻イラニ 延喜祝詞式

穗ホ 音遂古文作遂說文禾成秀也詩傳穗秀也

禾ホ 廣雅梁穗其穗謂之禾

著名

書紀イ穗の一字と伊奈保と訓れ續紀ニ赤丹穗ホと

つとと熟稻ホと何々めはいつと川めふぐたと皆稻ホを

アホるりホお葉ホは丹穗ホと何々ハ今の依ホの穂ホの赤ホスホとホい

書紀註ニ穗訓保火之謂也草木砂石自含火也又曰草木

の萌ホ出穂ホは出初ホる花の蒼ホの紅ホは是皆火精の著ホ也

と見るホ一ホ又曰萌與燃同訓義花將開俗謂火登毛須按

洲ホ之れハ秀亦保と蒼ハ津火見也神武紀ニ秀真と保通麻と

大神勅曰以吾高天原所御齋庭之穗亦當御於吾兒ト其

穗ハ即稲穂ホとして人民生育の大奉と揚て皇天受授の詔

勅ホと日嗣の皇孫ホに誥ホふ謹て其御奉意ホと地りある

夫五の穀ホ豊ホあるときハ衣ホとたらしぬ魚ホし食ホとの之

一ホきものハ衣ホと為ホる例ホあるとありホはも多紀の

宜ハ衣食ホと何々といつととかは依ホ理ホある禮月令云孟

春天子乃以元日祈穀於上帝孟秋農乃登穀天子嘗新先

薦寢廟大戴禮嘗新於皇祖皇考左傳云夫郊祀后稷以祈

耕ホ又曲禮云歲凶年穀不登君膳不祭肺馬不食穀馳道

不除祭事不縣大夫不食梁士飲酒不樂云々王制云五穀

と毎歳の例式とに蓋 皇孫福穂と撒^{ミキ}あつたの故実と存
 せり万葉と吾妹^{ワキモ}子^コうわきとつくま家秋の田乃初穂乃
 かつた乃れとけりぬらも年中新奉款合と新あめやま
 のあ乃初穂物おきとけり神酒^{ニキ}路^チふ雲の上又三代實録
 新鑄の錢^{ハツホ}早穂二十文宣胤記と永正十六年正月十一日
 下御靈巫女^{カシナキ}供米持來遣初穂物下學集と最華取^{ハツホ}一切草
 木最初之花^{ツバ}献神^{カニ}故云言塵集と早米^{ハツホ}とらんきり今俗早
 米とのこ呼^フつる古言梯^ハと稲の外^ノの物とをばつはつは
 あハ轉^マなることらんえしとく魚^{イサ}あハ初尾^{ハツビ}と書る凡
 食物の類^ルとる錢^{カネ}貨^{カネ}番^ハ花^ハとむり新^{アラタ}なり賜物^{タマヒモノ}或^ナハ始^{ハジメ}と得^エ

物ハ祖先^{カミソコ}よき家の套^{カミ}語^{コト}とあまり和漢^{ワカン}共^トいふハ
 食^クとる時^{トキ}もかき飯^{イヒホ}粒^リと祭^{マツル}まする中^{ナカ}おまが膳^テの一方^{ヒトカタ}も祭
 子^コあき垣^キと居^イりてハ浮屠^{ウフツ}の^ノ飯^{イヒホ}粒^リを^ヲ置^{オケ}るまが祭
 存^{ゾク}やうハいりまると佛^{ブツ}語^ゴもと蔬^{ソウ}食^{シキ}菜^{サイ}羹^{ケイ}必^{カナラ}祭^{マツル}るとは尺
 えき又^{マタ}按^{オス}と武烈^{ブリョウ}紀^キと影^{カゲ}媛^{メノ}と鮪^{ササギ}臣^{オミ}の戮^{ツク}まると悼^{イタダ}て新^{アラタ}
 吊^タひるる時^{トキ}の歌^{ウタ}此^{ココ}玉^{タマ}筥^{ハコ}あは飯^{イヒホ}さ一^{ヒト}威^イ玉^{タマ}盤^{ハシ}あはあさ
 一^{ヒト}蓋^{カシ}泣^{ナク}をばちゆくとあり是^{コノ}今^{イマ}あを喪^{ムス}れの時^{トキ}靈^{レイ}前^{マエ}に飯
 と奠^{イハ}り水^{ミヅ}とる信^シふ縁^ヰあしあてあをな水^{ミヅ}初穂^{ハツホ}と
 ハ皆^{ナニ}太^{タイ}お乃^ノ風^{フウ}儀^ギなり志^シく新^{アラタ}を喪^{ムス}葬^{サウ}の礼^{レイ}と浮屠^{ウフツ}のあ
 妻^{メカ}ぬるよりあを信^シと酒^{サケ}水^{ミヅ}とあゆえあ火^ヒと秉^トと茶^チ毗^ヒと
 心^{ココロ}えぬるといとひと神^{カミ}樂^{ラク}歌^カと麻^{アサ}績^ニ女^メのさえハ志^シと

首禾^{セキ}乎禾穗垂而向根君子不忘本也○稻植の出あがら
 穎^{ホカシ}枯らして白穂とらふ穎と吐くを實と成らるなり俗
 穂^{ホカシ}枯らして又黒穂とは言ふなりはてして焼^{ヤケ}焦^コるがふ
 くと黒くなりとふ
 字書稞^{ホカシ}禾傷雨
 則生黒^{ホカシ}斑^コ也

乃義和名鈔○
 即芒也

波志加 稻毛 東鑑に稻毛三節有り或義

芒 音茫和名鈔引切韻禾穗芒也正字通稻之有芒刺者曰
 芒種周禮地官下地澤草所生種之芒種註芒種稻麥也

秒 音眇說文禾芒也又曰穰芒
 粟也六書故五穀皆有穰

蕃名ステーケル

乃とは直也義とは物の実鋭なりと支といふなり一説
 支ハ利の謂劍芒の類皆是なり波志加とハ物の柔靱
 堅脆とハ吸つる其芒の物と刺とつきう為るなり又
 稲とと麦とと青竹とといふも其芒の刺もるなり此をて
 いなり稲芒も長く細く細く大きく又者毎の差あり
 毛を赤白の外に數種有りて一々一々○穀芒と作毛
 とといふ又毛見毛止なりといふ一々一々○幾毛田草毛取
 りとといふ又地より産ぬるものとあへて毛ともい
 たり雄進尊盤古氏の如き身毛寒く樹毛とたりとある
 毛ふるきいひ傳なりと一

穀梁傳凡地之所生謂之毛是
 氏春秋以草木為髮藤相公辨

者納穀不絶本類廻元種子本稻之外不得收穎後世百姓
 貸穀とらふもの筈ハ今年の種穀を記之の富戸の田
 子債の米許と利息と約束し秋熟する時之を償ひし
 けり當歳凶荒かれハ本穀とて不完と償しむるを
 翌年ハ此穀をれとも去年の負債より償されて延々
 次遂に窮百姓の基となりふれ昔ハ此の禁制ありしなり

稻イナカ莖カ 古事記

和良和名 鈔

稗音苛與音同博雅稻穰謂之稗韻會稗禾
 莖音空集韻稻稗也稗音籃稻穀穰也

穀草農桑直說

禾稽正字通亦謂之若

稻州粟州以上

蕃名ストロ

古ハ草とも和良といひ一説ハ和良ハ加良といひ
 米莖ハ此ハ和良
 久支ともいひ

和良須倍宇治拾遺

和良志倍 稗音空穗音空ハ空多とて空はともきき
 のと須 簡稗音空須具利和良 退私録須具利ハ勝と通

稗音曼本作稽鞋禮記註治穗去實曰鞋或作蕪韻會稗
 去皮為稽書禹貢註刈禾半稗曰鞋半稗去皮曰結

稽 説文即 苦 字彙
稽 稽心也 未皮

蕃名ビン子

稲稜の用尤弘しむりし居と葺くもめ之小取まり蕃と
稲稜と二川と折うけく舎とと依由急奉ハ家居とわく
轉しと曾丹集といちりてとんと誤これハ軍中又
ハ旗り農耕の切りそめわぎととるなる俗幕の紋ふ
との入の字形ととるといかりととるハ稲と折と
辨とやいみととる富の室屋ととる葺がかりと
ハ檜皮葺なるもととる大神宮式忌初と寺のことと
葺と唱つり 寺と豆羅とい ころは尚時ハ解孝の地面と
ふハ韓語なり

廣く葺の標跡ととるりのぬされと白民の居ハ稻稜とて

ゆきしむとに残り稜とといつり宗廟の尊無二とい

ふ 大神宮だと葺葦剪は清河りさは譏と常世の

神意と仰る 臣国柱謹按とむり先君慶長の頃と時

々軍園の跡城ハ民ととる不ふて殊ハ他邦の使者も毎

度より来りては先君ゆて城門許ハ瓦葺ととるをわ

一家の内ちととる時他邦の使者ととる必と固ハ衆と

一威に及ととる吾邦内士庶の強富なるをてを忍ら

一又豊太閤親政来り時三國乃兵と權ハ改ゆれき

切て敵の兵糧と絶さるるは是時我ふこととの
凡園と君ととるハ民人乃君なりと先君曰ふこととの
地とハ始て馬の蹄とかけさせと軒の百姓と穠の土

と塵わらうとふ又苞苴ハクの俵ハクより以稗ハクハ性温ふるを
 のふして能く異り堪ふ故小收トヨク花ハナの多く是より裏ウラり
 又其心ココロ帯オビと製ツクて糞フンと巻く又其心ココロと造る而シテ葉ハ筆ヒツなり又紙
 又造るを豪ウラ原ハ紙シと云蘇易簡紙譜云浙人以稻稗ハク○本細
 稻稗煮治作紙其紙不可貼瘡能爛肉又云治墜馬撲傷損
 用糯稗ハク燒ヤク及以新熟酒連糟入鹽和淋取汁淋痛處立愈也
 ○凡稗の淋汁皆垢汗と洗ひ除く就中子ウ稻稗の淋汁ハ
 布を洗らし紅花ベニに用お絹布と染る魚しイシ沖ウチ健ツクの稻ハク中
 夏と冬ナツ獲ウケるるらゆ急イソ米コメの突ツキつりハカ又マ豪ウラ灰ハイハカ鍛カ成ス
 らざれどもわらふ力ありて任汁ニ濃ノボし又マ豪ウラ灰ハイハカ鍛カ成ス
 ばらハ用ニ金カネと鍛カ成スに成ルて附ツキるもの也其心ココロ鑣カと

打ウチおけ黄金オウゴンと入イく丸マより十二までニお折オリる折オリ毎マお
 と入イるニお折オリ鑽クとて鑣カの中ナカと割ワるニ眼メはくニふらシ

瑞ミ稻イ書シ

兩穗リウスイ古事記序コジキノにハ穂ホ之ノ
 兩岐リウキ稻イ及ツ麦ムギ之ノ

嘉禾カホ書周シヨウ公受コウ禾コ東土トウ初ハジメ作ス嘉禾カホ之ノ誥コトワザ○春秋感精符シュンシュウカンセイフ曰イハレ下シタ
 論ロ於オ地チ則スレバ嘉禾カホ興キヨム○孝經コウキョウ援神契エンシネキ德トク下シタ至ニ地チ則スレバ嘉禾カホ生ナ

合カ穎コウ秀シウ麥マク已ニ分ワケ岐キ嘉穀カコク史記シキ晉唐シンタウ叔シヨク得トク嘉穀カコク鄭玄テイケン云イハレ二
 蕃名ハハ廿ニ一ヒトメヒトンニグニルニウニイニ上ニハニンニテニウニ上ニ一ヒトイニ上ニ

治部式チブシキ曰イハレ中瑞チュウズイ曰イハレ嘉禾カホ或シテ異ヒナ畝ウラ同トウ穎コウ或シテ孽ウラ連レン數穗スウズイ或シテ一稗イツハク二
 米也コメナリ○天武紀テンブキ七年秋九月忍海ニ造ツク能ス磨マ獻ケン瑞稻ズイ五莖ゴシヨウ每莖マヘシヨウ

兩穗稻



有枝八年八月縵造忍勝獻嘉禾異畝同穎同年十二月因

幡國貢瑞稻每莖有枝九年八月法官人貢嘉禾東觀漢記

濟陽縣是歲有嘉禾一莖九穗後魏書許謙字元遜代人

也子洛為雁門太守家田三生嘉禾皆異隴合穎元史世

祖至元四年大原進嘉禾一本異畝同穎○持統紀六年九月伊勢國司獻嘉禾

二本○文武紀十一年九月京人大神大綱造百足家生嘉

稻○嵯峨紀弘仁五年八月大和國八島寺有嘉禾一莖十

八穗金五行志興定元年大社○類聚國史文德天皇仁

壽元年八月河內國獻嘉禾一莖三穗○扶桑畧記陽成

天皇元慶九年正月甲斐國獲嘉禾是夕前天智紀三年

十二月淡海國言坂田郡人小竹田史身之猪槽水中忽然

稻生身取而收日々致富粟太郡磐城村主殷之新婦牀席
頭端一宿之間稻生而穗其翌且埜穎而熟明日之夜更生
一穗殷得始富○大倭姬世紀曰 垂仁天皇廿七年秋九
月小鳥の鳴き高きなく鳴きおと止は大幡王命の舍人
紀磨と違ふの鳴き所と着やあふ小羅て着ハ
島國伊雜方の葦原の中は稲一基は存ハ一基小一そ
末千穂茂さるりの稲と白き名鶴くさゆり時まらるる
鳴きと見取て鳴きとらまら止は其反言申してまら
不倭姫命曰恐し事同ぬきとら田池て皇太神子献了着
と物忌始あはる波稲と伊佐波登美神して拔植ハ

して皇太神の御前小懸まじり又生稲と大幡主女己
姫は清酒造とて御あへり奉じり又稲生地と千田と号
島(今)唐書朔方節度郭子義言寧朔縣界荒地十五里有
志摩也 黒禾穀出遍地毎日附近百姓掃盡經宿還生前後可得五
六千石其禾圓實味甘美臣以為天啟興王先瑞百穀故漢
稱雨粟周頌來粃豈若瑞禾自出家給人足益陛下富教安
入勢農敦本光復社稷康濟黎元之應也又云元和中東川
觀察使潘孟陽上言龍州武安川中嘉禾生有麟食之復生
麟之來一鹿引之羣鹿隨焉光華不可正視畫工就圖之并
嘉禾一兩以獻是等和漢の登記と伝不蓋証をくさすは

そのあらん

むりより荒歉の極よむすけし草根樹皮を喰ていさ

るたわしはるされも食小雨夜の星の光と稀よ

稲粒ふるこの糶されハ候も下りく菜食のよされハ

必然、まさめ浮腫て面部鰓黒色あるものありし

氣力の憊手足の動もまじりし

客叢書云乙卯春歉甚准人至剥榆皮以塞飢腸○野語述

説曰延寶乙卯春適大歉飢殍滿道路予栖遲山市有賣樵

薪者其薪皮多白問之則曰飢者剥以當食也其方採松樹

剥皮煮之數沸然亦浸水去脂杵舂之入米少許為餅充其

飢腸也其餘無名之草木無不食之也雖固塞一時飢腸終

免其死十一二而已○南楚新聞云荆南孫儒之亂斗米四

十千持金寶換易纔得一合一撮謂之通腸米言飢人不可

食他物惟煎飲之可以稍通腸胃是人穀非れハ生さる

の次在哉 百姓の色度晒しそのあはれ其皮膚の痒ぬ

ふといふは常々雜穀と茹て糯米を喰ふるゆゑと

や固て保蔵といつと一日も糯米七抄と糶といふと

のれ終子俄草を免ふといふ人糯米非ざれハ亦生つ

中や 按子東小坂夷の人を者古十歳を以て身命とす是

を適糶とせしむれとゆゑ味粟もも劣て只茹き穀肉と茹

ふぬももあはれと計五十粒期命とも食之と云い給ふ

ハ人ありて糶と食ふはものハ豈只も形容のかしげ

の保よあはれと天年と全夫糶は火水の如くもて成

て了國もおいてハ糶て食さるるはあしきうはに編ハ

太陰乃精と云は春秋説題辭に載て西土の辰より新
方乃農書に六の辰に斂て播くを云ふものなり
つるもの凡物は各火乃二のつらよるを云ふ火の
徳よりて成るるを云ふれは播くもの日何なりよ
ふやもの何れも成るる少しきを云ふ也よの
こなれはもの成るは各年ハ成るよかふらふらよ何
ら又素問云稲得天地之和高下之宜故能至完也伐取
得時故至堅也とありさつと播く西土の辰を云ふ
は辟を成る炊てと種と云ふ味ハ新方の種よる芳より
固て唐人の版と云ふと云ふ新方の湯を漸也と云は唐

人の力能弱ハ生食の何れもがゆを○凡村里の堀
けふと流入る編田はよし穀蔬果實をよ人の使還り
ものものをとりけきかつてみだりに生立たり
故に田土を転るよハ第と云ふも人の編畦と云ふ
しよてもくも養ふあるよし人なる物を着る物理か
くのおり但振る埃馬通あどの帯に沃き及よ田地を
草木の莖といふは上田より成るは井されぬか
の懸りて地と易て細と云ふ或ハ川沙海堵等の容
土と運いしれし孝經援神契に汚泉稲宜し淮南子
も江水平肥而宜稲と云ふは續考の曰稲の懸るを云ふ

茎とさくら茎をかり太りては更りまわしをハ
 肥のこて地の氣凝るや此時ハ田と乾一様とて
 の間くに竅と明て地氣を脱みけを定てあまを
 去り新くふあとかくれハ穠出米かより更りよし
 上田乃穠ハ根株をせし凡穠の細根一畝にハ稈二十
 莖とありたり下田は三本株れを三畝のまきとて
 小とよし

成形圖說卷之十五終

成形圖說卷之十六

目錄

- 粳 ウレミチ 附早中晚 ソセ ナカラ オカ
- 稷 モクノメ 附菜餅 ヒキヒ
- 陸稻 ハタケイチ
- 私山 シカヤマ
- 稻孫 ヒツチイチ
- 穠 オロキヒイチ

成形圖說卷之十六



うはと、獲あり延喜式に獲の字を書る事志祢八年稻
 の幼ツギもより年ハ穀カネの多ありと対節の所よくをし
 くんえとる此の米の中あてとけりて獲カとの
 著イナヒおれバいつりて一は潤カ福セ也ミ米のうはち凡種カの卷ツギ
 米コメと糯ヌカ米コメを較ヒみるに種タネハ穠コ光ツギ澤ツギありと此のハ即チ人の
 常ト糧カとし食タふ所の米ありと申あて早中晩ワセオカテオクシの三種ミトホリあ
 り夫和漢土地と異コトよし米性の美惡ハカ適ホいそかき
 とらひとと種タネ獲カの時節トキフシわががさほむてハ益シ善シ
 天乃同トくもる所あり但南ミナミ北キタ寒熱サムイヒに備カものは早晩サキヒ日ヒ
 回カして遠トくく遠況トやそ名品ナヒナりて一國の中一郷

の省ふして各地の俗同一定なく或ハ同種ありて數十
 名又其形状と相分毫厘の差なしとして又稲種ハ時々
 流移するものと推れハその三四年は成実するとして
 種易して種るとのなれハむり今この種穀と良莠
 の分るは故に徧く四方の俗稱を考ふるに及ば地日查
 究ておのほかろ知るのありし
字書ニ種又特種鳥稜
赤稷白稜あり皆稲の
 田應役丁之處毎年宮内省預准米來年所種色目及町段
 多少依式料功申官支配
義解謂色目者稲白黒
為色也稲名為目也 稲名の方
 えらる最尚し其後の考に袖乃兒長日子穗多兒ふどく

稻の名と詠るあり今從諸物傳する所稻名亦多し○和
 名鈔引唐韻糲青稻白米也實白稻とあり糲或按風
作糲
 土記穰穀之紫莖糲稻之有青穠米皆青白者也又袁淮觀
 殊俗云河内青稻新成白稷淵鑑類函は思ふとあり
 和世萬葉集歌よとありは乃速稲と川とに
 稲あり下徳國葛城郡の中は二五とありは乃速稲と川とに
 早稲東國第一の早熟とあり一説は秋の功いとあり
 熟ぬるはるは秋の功いとあり一説は秋の功いとあり
 色も早の早稲ハありは乃速稲と川とに
 あり早手の早稲ハありは乃速稲と川とに
 早稷本州○時珍云六
 早稲幾暇格物論○聞書
 早禾
 農書 糲稻農政全書櫃田淺
 書 侵處宜種黃糲稻

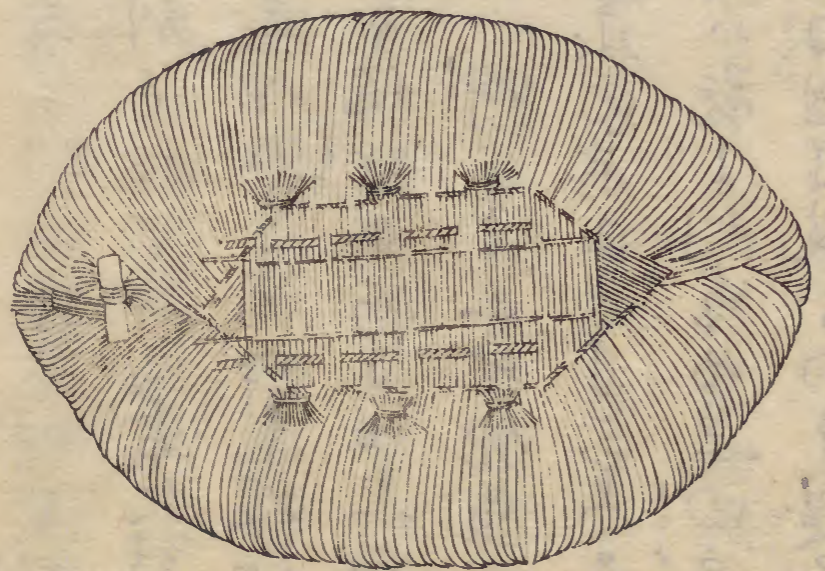
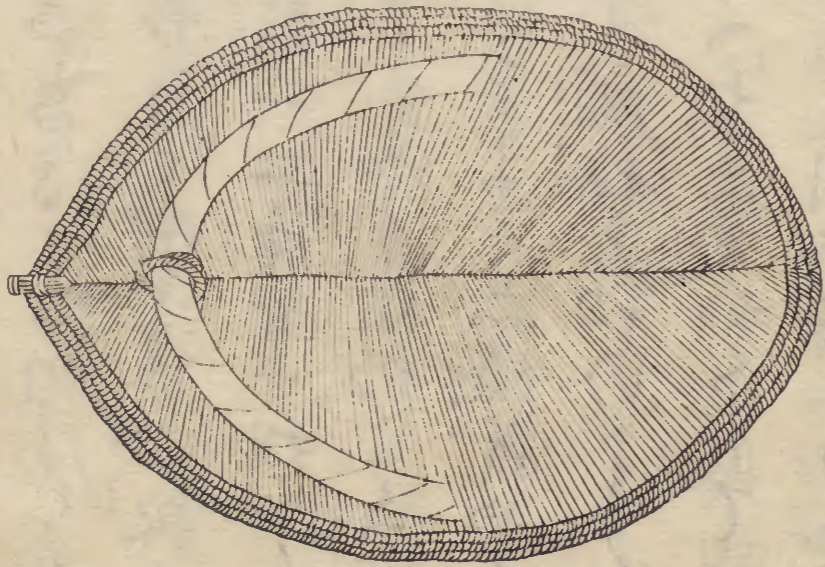
福よあゝと初夏して秋令とゆふあり
 今一節早稲とつゝこの元子し（芒稔サカラ）茎よ一節出まは
 即宜浅る六月（モキ）なほ熱やりある一粟よ兩種とるん
 倉し又搦子稲とつゝこのは穰（サクラハナ）花開くる頃又稲刈しぬ
 伊勢早稲 尾張早稲（モミ） 肥前（モミ） 芒稔米 五島（モミ） 稔米并
（白） 小島子稲ハ多産をゆゑよふあり此等ハ其始種
 と致せし本土乃名と傳ふる耳又越中子稲あり是亦北
 國の種なり 房前 刈草 熊谷 袖兒 緑葉 荒芭
 湯田 笑樂 吾待受 葉隠 網子 芭茅 小穂星
 楊柳 根乳 葉潤 大早稲 ぶぶの若くさるしかな

し子編ハ種子と節ふより廿日めよあるに浸て廿日と色
 てれらば十日めよ乾しゆいより廿日の湯と侵の上よ
 已灌（カケムシロ）送るとおもひ芽と出しつゝは二月（彼岸） 啟（前） 穀
 播て四月初旬ハ皆秧と拔起て分載より七月中旬よハ
 獲収（カリヲキ）むじけとの粒少く味薄し蓋稲は主れとゆゑハ堅
 好（ヨカ）も子編ハ終り初（ハツキ）秋（ナレル）に穰成とのおもひつら若かり
 我藩の南島雪降ると霜墮（オチ）とゆゑ人定よ種（ウツ） 播て五月よ
 ハ浅熟ぬ是斯方の子編と似るや又ゆゑに早（チハキナク） 種弱して
 肥前よ類わり天工用物所謂其冬季播種仲夏即收者
 則廣南之地無霜雪故也とあるがふとし然とも衿陽雜

録と関ケル朝鮮早稲の種穀タネと載カり朝鮮ハ極キョクての寒サムイ土ツチとれともふも寒土サムイツチはね無ナシの早稲ササヒはるもいともあま○凡オホ子稲ササヒと作ツクるの利リハ寒サムイし七八月の間マはむれハ洪水オホ人風オホみ遇アハて稼トリミとまふとよの作ツクりなを子稲ササヒとれハ夏ナツ月ツキ法ホウ穀コの種タネは作ツクて入イり海ウミの利リと甚シし農民ノリノヒトと食クハ物モノは固カタく又マタ麥ムギ種タネと播ウツる方カタは作ツクるをり々東ヒガシ陸リク州シュウハ推オシ陽ヨウの純ジュンもて時トキ令ノリハ西南シヨウナンより海ウミ寒サムイとていつともそ田イデハ旱サカシ稲ササヒと播ウツる農夫ノリノヒト冬フユ中ナカより田イデ起オキるも急イサ春ハル草クサは根ネと断タテて土ツチの膏アガ澤ラキとまふとつとつとれとも田イデ中ナカ一ヒト年トシ鳥トリ通トス原ハラハつとよ及キぎ本ホ皮クニ菜ナ或シハ唐チヨウ苔コケ諸シヨ芥カイとも播ウツるも田イデ中ナカ

天子御艸オノミ履フキ圖ズ 帝ミカドの末スエとハ南ミナミ都ト春日ハルノヒの社ヤシロ家イヘ米コメ七ナナ升シヨウ 帝ミカドの末スエとハ南ミナミ都ト春日ハルノヒの社ヤシロ家イヘ米コメ七ナナ升シヨウ

福フク得トク 一ヒト筋スジ 表ウラ裏オモテ 取トル合アヒ 先マテと 後ノチと 細ホソひの 細ホソき 稲イネ縄ナヅナ 編アミむ



裏ウラハ 皮クニ履フキ ぬ程ノリ 麻アサの 糸イトを 編アミむ

成形圖說卷之十六

鼻緒ハナオビハ常トコの艸履フキは出デて包ツクむ

鼻緒ハナオビの飯イハと紙シ 出デて包ツクむ

七

へおろしと土と反はふと粘通して春月揚^{ウツキ}振^{カバ}葉^{イダス}と芽と
 候^{コト}て石^{イシ}草^{クサ}等とぬれく^{カシキ}耗^タき^ク三月^{ミヅ}中^{ナカ}秧^エと^キ播^ウて^ウ栽^ウ
 日^ヒ々^ツせり^ツ所^{オトナ}老^マ農^{ウチ}田^チ畝^チを^チ附^チ副^チて^チ秧^チと^チ挿^チは^チ者^チに^チ播^チり^チと
 多^{オホ}く^チ類^チ一^チ二^チ本^チと^チ一^チ科^チとし^チ二^チ尺^チ四^チ五^チ寸^チ間^チ許^チを^チ根^チ深^チく^チ土
 を^チ入^チさ^チす^チや^チう^チに^チ植^チる^チより^チかく^チ稀^チ疏^チを^チ阿^チる^チゆ^チ之^チ苗^チ根^チを
 日^ヒあ^チら^チせ^チよく^チ急^チ滋^チ茂^チや^チき^チ一^チ科^チより^チ二^チ科^チ飯^チ釜^チより^チ殖^チ
 せ^チ地^チ又^チ鋤^チ耘^チと^チ初^チの^チこ^チこ^チと^チ草^チの^チ葉^チを^チ刈^チて^チ糞^チを^チま^チく^チす^チ
 同^チ地^チへ^チお^チろ^チし^チかく^チして^チ七^チ月^チハ^チ既^チ上^チ刈^チる^チゆ^チ之^チ田^チ戸^チ糞^チを
 お^チして^チそ^チの^チと^チ濁^チり^チ又^チ曰^チす^チ田^チ租^チは^チ段^チより^チき^チ糞^チ一^チ科^チ
 八^チ斗^チ又^チ藍^チ苗^チの^チ年^チ税^チあり^チ按^チよ^チす^チ一^チ科^チ一^チ二^チ本^チは^チく^チあ^チし

て^チ荷^チす^チの^チ間^チ穢^チあり^チもの^チハ^チ土^チを^チ掃^チき^チり^チゆ^チ急^チふ
崔寔四民月令云三月可種粳
稲美田欲稀薄田欲稠昂是耳
 し^チき^チの^チこ^チこ^チと^チ及^チも^チ臭^チ氣^チを^チあ^チし^チもの^チは^チ米^チ穀^チ狼^チ戾^チして
 收^チ獲^チより^チ磨^チり^チぬ^チる^チよ^チも^チそ^チ鹵^チ莽^チなる^チが^チゆ^チ急^チふ^チも^チ物^チ障^チ奥^チ
 土^チ肥^チす^チの^チゆ^チハ^チ土^チ地^チ潤^チく^チ拿^チり^チゆ^チ急^チふ^チ初^チより^チ田^チ地^チを^チ肥^チ養^チ
 と^チ施^チす^チ及^チ以^チ山^チ形^チの^チ田^チハ^チ子^チ種^チと^チ栽^チる^チの^チあ^チる^チ地^チ中^チへ
 入^チ来^チて^チ川^チ泥^チを^チ拌^チる^チの^チ濁^チ泥^チを^チ田^チへ^チ澆^チめ^チて^チ度^チの^チこ^チこ^チと^チ
 再^チ糞^チと^チ用^チる^チゆ^チと^チ濁^チり^チ又^チ秋^チ田^チ頃^チの^チ子^チ種^チ米^チハ^チ浪^チ華^チ
 に^チ致^チして^チ秋^チの^チ彼^チ岸^チ後^チより^チ子^チ造^チ乃^チ酒^チ不^チ釀^チや^チ俗^チの^チ之^チと
 何^チぞ^チの^チ造^チと^チる^チ農^チ業^チ全^チ書^チ曰^チ早^チ稻^チハ^チ苗^チ代^チよ^チお^チく^チり^チ廿^チ日

云地土高下燥溼不同而同一於生物生物之性雖同而所生
之物有宜有不宜爲土性雖有宜不宜人力亦有至不至人
力之至亦或可以回天况地乎宋太宗詔江南之民種諸穀
江北之民種秬稻真宗取占城稻種散諸民間是亦大易裁
成輔相以左右民之一事今世江南之民皆雜時諸穀江北
民亦兼種秬稻昔之秬稻惟秋一收今又有早禾爲二帝之
功利及民遠矣とある是實も今日の急を救ひて時の利
と資の術とらつても凡土宜る所天地の旨おのり
南山の突ふあれはいくると人力を令しつりとも終る
ハ回天の術と救へがし物つてい高爾も就ハ重遠と

と成迂闊うしてふはるるも何り迄そ文祿の頃始
て甘藷と蕃船と獲るるより西南の地ハ山野肥磽と
ふく播殖して百姓以下今日の急を救ふりの急ふさ
るハふしとるもてと糯米のせよ羸羨ふさハ何事ぞ甘
藷のたるとハ其種播き易簡し水田の作苦一つ、
且早潦風虫と恐るの患ふさゆ名稲種ハ耕耘ハ大やう
にあり初るる所とあせぬし又稲ハ不熟とも當年ハ
甘藷土はるる一方よこのまありふも何るるも
し凡むり甘藷の類ありそ稲種はるるも何れもは
よ々文祿乃その救ふくはる海一かば終るはるて

るもの外あり新とるものど一方よりれハ一方の
しはあしいふれは漢書とつらいつと瘡疹ハラス
く侍深りソミウツ井落外カライモとを相築タバコとあり下痢までつち入て此
よよしと書け彼ふハあさつとと萌キサレる勿為禍先勿
為福始夫禍先誠不可為矣福始亦不可為と此の傳あり
只何事とじりしゆりよまハハはまじ宋太宗真宗あ
との占城福は獲エる事と利氏の第一とる事も土地の
さふしきよよて也凡稷稻ソウルニの春秋と度て滋養イデキゆる是此
方水土相魚オキナのたもて就中オクテ晚播ミナリちど宜ヨク味とくれ
りるハあし我の沖繩ハ大寒タチ種撒キて四五カ月ハいれ獲

収ツカむより新方へ瀕イカき海見島ハ六月カ月カ獲カるより
まゝ部方へちりき蓋板島ハ七八月カ月カかりとふ遂サに部
方へ部りてハ十月の末オホカマもハいさなをく此其サキ気候キコウの前
後オシロハ約一月オホカマわくわくね差サどかし天地サマキアツキニツレの空ソラ晴ハレ第
て地物ツリモノと相無アヒツルハちづまわされハそ水土にかあそ
むものはいちど人カとせせるもと性ハカ感カ備ヨリて
約量ニヒと少シさ理ニヒありそ西ニヒ月カハいさなは南島ミナトの福フクハと
どより此方コノカタもてと子コ播セハ皆ハ脆ハラツキ鬆キて味アジ清スくさあぐ西
土蕃地ツバチの糯米コメのぶとしはまじ耕ウツ作シハるそ河部カハと邊ヘ
を天性オチと吹フい成ナとあさざらハ河部カハと安ヤスさうと



秣稻

法橋洞龍美清筆

去て一息と我地とのどと農業は勤るにあらざる
 以味よふれ利巧と加つて却て徳と失ふと多し
 元耶律楚材每言興一利不若除一害生一事不若減一事
 と此の謂あり

餅米 新鏡

餅乃米

和名

毛知志福

餅

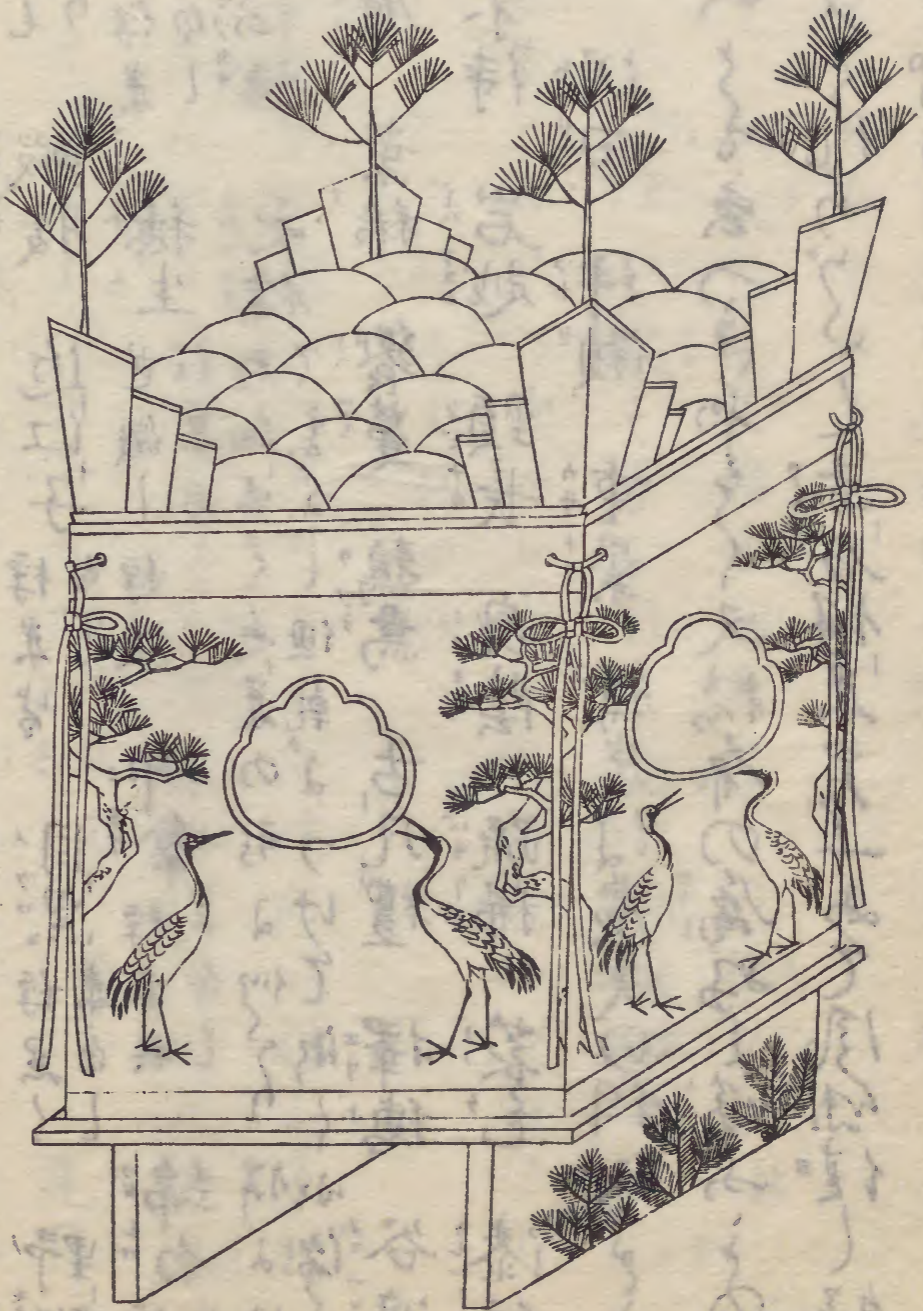
籾

籾

稗音悞俗作糯糯○和名鈔引蒼頡篇糯米
 稗之粘也○天工開物稻種粘者米曰糯
 稻也詩豐年多稗天工
 開物稻種粘者米曰糯
 子固請種粳乃使一百五十畝種秫五十畝種粳
 內則云菽麥黃稻黍梁秫惟所欲也者以稻與秫稱秫為糯

延喜乃御宇近江國より大嘗會に供物あり一町

いよみ
乃屋
かぢみ
の山
たれ
はうぬ
てそ
尺ゆり君り子と結ば



大伴黒主

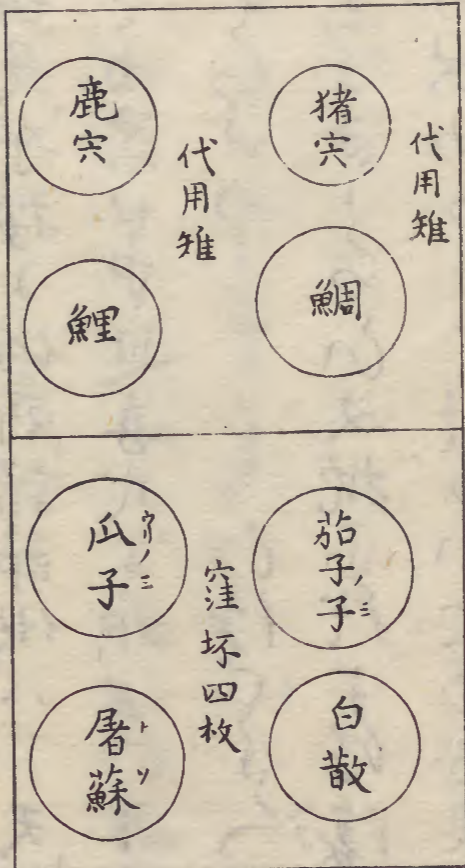
糰米ハ昔祖神スミメケツルノ薦享ソナヘノ樂威ソナヘニ供給ソナヘあり字鏡順鈔等ニ
餅ノ一字モて毛知モ此モと訓モ又職人歌合モえりてせ
ば秋モの田モ乃西モの穠モもちモねモさモにモいモるモ山モの満モの月モ
今モも知モとのモいモハ畧ハりモるモ也モ禮内則註モニ資稻餅也炊
米モ持モ之モ以モ豆モ為モ粉モ糰モ資モ上モ也モ爾雅翼云モ合モ蒸モ則モ曰モ餅モ餅モ之モ則
以為表餌言モ夫正月元旦モの禮節ハ神武天皇モの御宇モ
始モめ行モはりモ本本紀モヨモるモりモてモ歳首モ子餅モと製モてモ
餅モと稱モふモハモ日神磐戸モヨモありモせモおモりモるモはモ時
臣御象鏡モヲモ講モまりモてモ祈モりモるモ再モハモ磐戸モヨモりモと
いモ佳例モヨモりモてモ新玉モノモ身モ立モりモ春モのモ初モ日モノモ常モ備モ

類聚雜要鈔

供御脇御齒固六本立

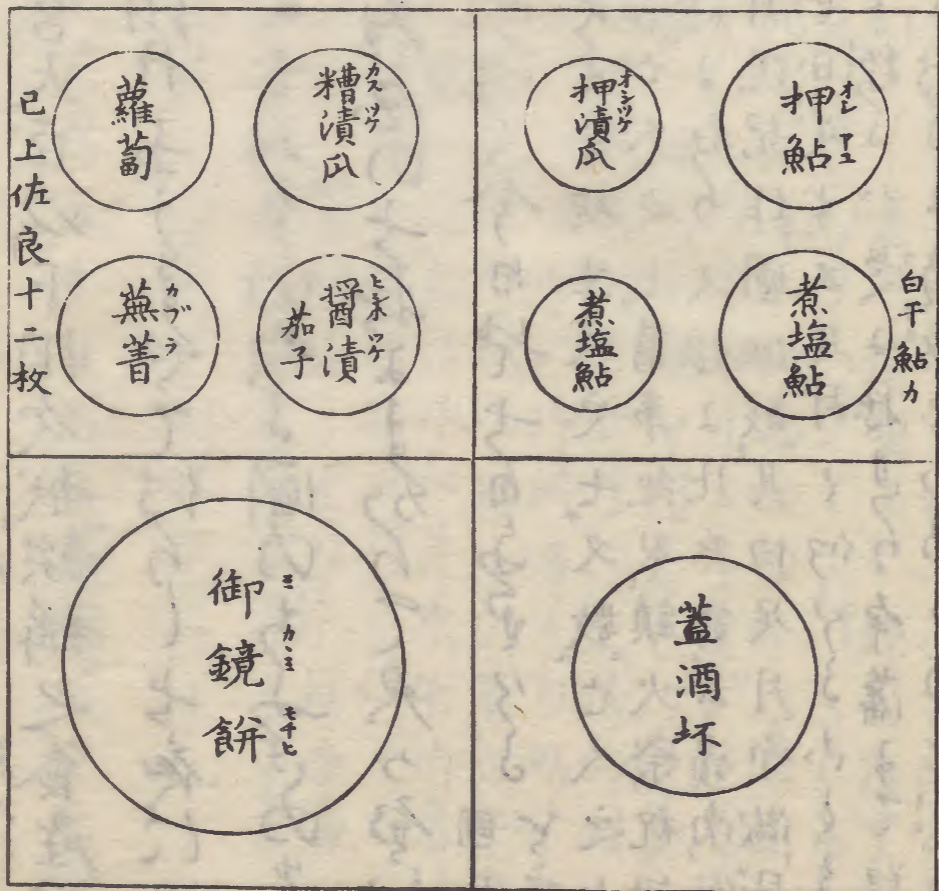
三箇日同前也
御臺盤所供之

近代鯉雉鯛鱸如此盛之



料但不入自内膳司者也

料但不入自内膳司者也



置鏡餅上物

讓葉一枚蘿蔔一株

押鮎一隻三成橘一

枚但近代一
成用之

御鏡餅三枚日別自

藏人所出納渡之

此佗の用度餅子預

がハ省あり

誕聖三日、夕天皇設宴賜物、羣臣七日、夕皇后設宴賜物、後宮大臣以下相次獻饌、稱之養產、紫式部日記さぬすきの細た子うもせそけりし七夜に日のゆくはうしろをくもぬるのあつ國のちあきあきれとく引又拾遺集産屋の七物よまかりて尺の巻む八る美代と較ふれハかひく今日地七白あまらるる國柱按よ吾邦七くの教んて祝生人之七、又數亡人之七、尚志編よ載り吾書言亡人之七、舊事紀及鎮火祭祝詞よ出やり、洋子書紀通證よけり又按よ北戸録云嶺南俗家富者婦産三日或足月洗兒作團油飯、其曰足月昂濼月也と我い、あ、養育と日足と云足月と似、あ、今小兒の褌と日足と似、あ、は、是、子、探、し、り、存、藩、よ、て、兒、初、て、ま、て、生、土、神、子、法、て、は、る、よ、産、夜、さ、つ、つ、の、と、若、け、り、ま、製、白、布、生、土、神、子、法、は、袖、ま、く、色、縁、よ、て、肩、より、褌、よ、て、蒸、氣、の、お、と、備、せ、る、と

の也其繡文畧装煉地紋乃三重襷者子類に國按よ吾藩よて産夜と稱ふハ書紀よ襷襪乃襷字と多須伎と訓ま、者乃遺製よ也源氏爲雲卷よ姫君のたは、ま、引、結、多、る、る、の、つ、き、ぞ、う、け、く、し、あ、さ、と、ひ、て、ま、ら、る、と、又、抱、多、我、糸、一、地、地、の、部、に、は、は、よ、う、け、ふ、結、と、く、の、の、ま、の、ち、ろ、う、お、り、あ、ま、と、あ、る、よ、う、つ、く、し、和、秘、抄、曰、昔ハ幼人小袖とけ、ま、と、た、は、ま、と、あ、ま、の、と、ま、ら、る、也、藤、垣、州、曰、旧例男女共に忌袴の時小袖と見、ま、講、と、用、也、也、一、條、帝、の、袴、袴、者、り、好、く、小、袖、と、見、ま、講、と、用、也、ハ、白、河、也、の、紋、小、河、あ、い、裏、白、平、縮、也、三、幅、懸、緒、の、産、三、寸、大畧如打敷治承四年東宮御着袴の時存、知、乃、人、あ、く、て、沙、袴、河、り、て、用、お、り、好、く、れ、ど、も、さ、れ、ハ、六、百、年、前、既、よ、襷、の、製、洋、あ、ら、ざ、り、引、け、吾、藩、の、産、夜、さ、つ、つ、の、お、と、備、せ、る、者、に、其、好、の、ま、ら、る、希、し、ま、事、あ、ら、ざ、り、也、○、百、日、餅、ハ、本、朝、世、紀、曰、秀才判官兒百日也予食餅、と、何、り、又、東、鑑、頼、朝、卿、若、君、五、十、日、百、日、儀、賜、人、々、十、字、十字ハ餅の事也晉史拆、在、十、字、不、食、と、り、法、より、十、字、餅、の、目、何、り、事、○、戴、餅、文、類、聚、よ、も、載、り、饅、頭、と、り、ハ、く、ま、し、か、ら、く、ハ、○、戴、餅、成、形、圖、說、卷、之、十、六、二十

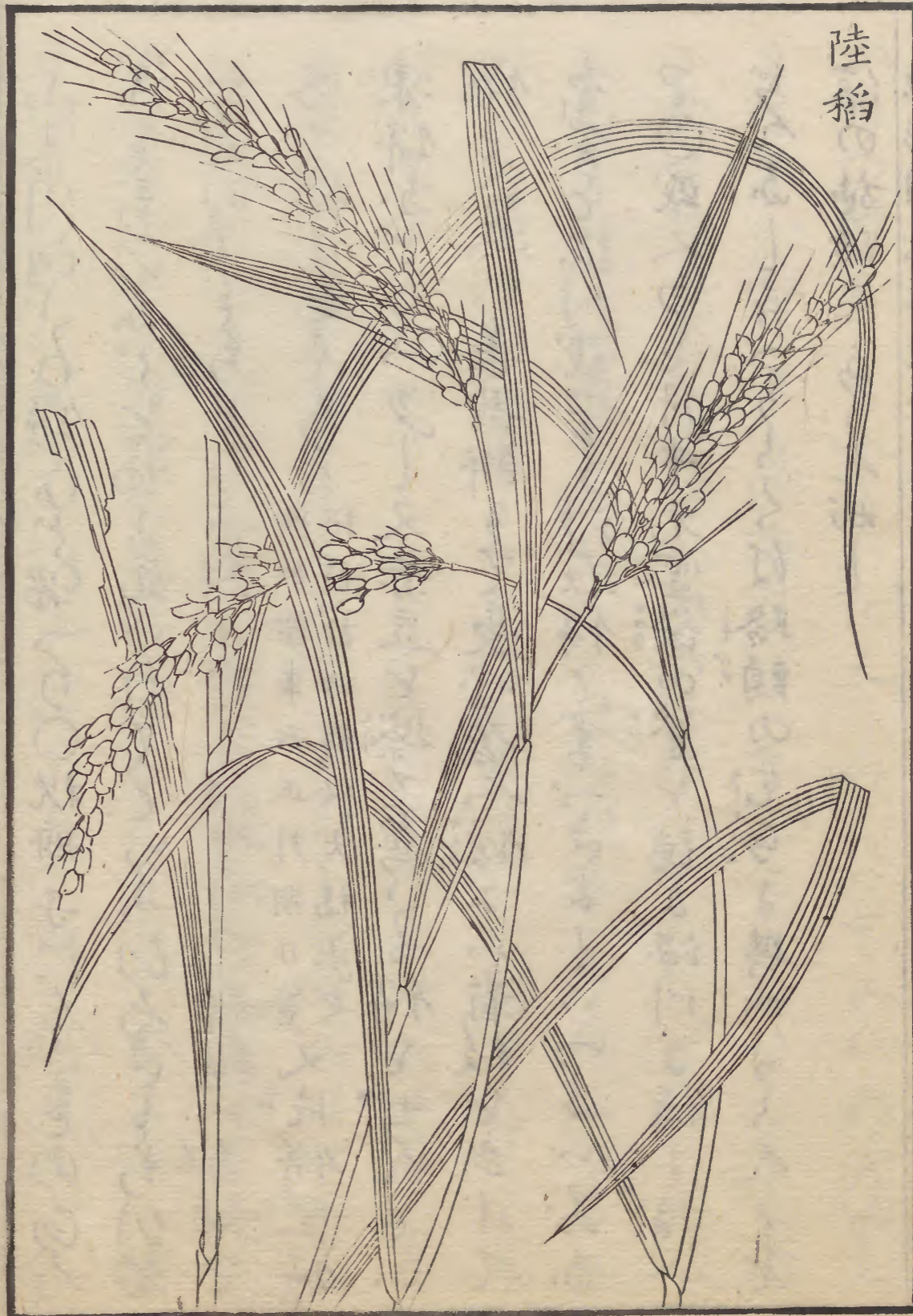
の冥も其数よそのの百らの机のといとあこま
つるしきさざいばやこけしととの志まじしよ
甲同虫度清事とて改えありて嘉祥とけりきめさせお
ちして六月十日あるに事いとせよせよとせ
こし民安く國豊なれハ此志とつとめて尚又おこな
せよあふなるしとそとせよとせよとせよとせ
る事ありあれハ三日の日のもくこ祭とおれく蓋嘉
祥申記言ありし案三月よ母子徳あまがゆあるよ六月
みはししうは遂よ後の心もなるしとせよ 抄事よて
はか川うと唱あるとりやまは納涼會あま〜とせよあ

甲 日次紀曰嘉祥和 禁裏威五色餐弁諸肴於兩土器各
紙蓋以十六錢求得物之遺意也 按世諺問答東見記等
六文とん食物と買て供沸とせしと踐昨の後伴の事と
傳ゆこし此日よ行ま〜とせしとせろハ蓋嘉祥と嘉定
と傳ゆと重なるるあり祥讀て定の音とて狩東人の音よ十
歳時記よ六月伏日宜作湯餅食之名曰辟惡又和 猪餅
樂部よ嘉祥樂あり太田磨ゆる所なりと云々 ○猪餅
ハ政事要畧引延喜藏人式曰十月初亥日内藏寮進殿上
男女料餅年中行事秘抄よ柳白杵とて以て於朝餉方卷
しの御儀又令為猪子形以綿裏之柳夜御殿疊四角猪鈴
日記よ嘗う〜いの御いう〜のころ〜とつくり
〜とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

の月の数生うるふハ十三うみてめてさくあはれし
 きまていみじきものあればとておこなひしよし付
 る掌中曆子亥子の餅七種の粉と合て作る七種の粉ハ
 大小豆豆サケ胡麻サケ柿糖サケあり世法問答サケ十月上の亥日
 の餅の事ハ内蔵意よりも亦其威積の氣嚴重ありより
 げんてうといふくもり是今の十月亥猪の俗節とん
 えり○三夜餅三ヨサノモチヒハ中右記寛治五年十一月二日女御入
 内之後有三夜餅事件餅民部卿所被調進也是高年之人
 所役者主上入御帳之後關白殿取之令進○季子餅イトコノモチハ臘
 月朔日の朝アサに食ふイハヒは餅イハヒなり故よあの朝と餅モチ月立ツキウチとい

ふ又川カハの餅モチもど留トドメり○枕冊子マクシにくクさこのひる
 きもちいふと物モノふ取トルれてといふひるきもちい若
 々ののノもちといふトれ也ヤと注ツせり○柿餅カキモチハ白柿シロカキと
 眷クワンて餅モチとあアとありニ
瀬朝樂事云正月朔日簀又片餅堅餅
栢枝於柿餅以大橘承之
 凍餅シメジふどトふ多シ又赤豆アカマメと擦スて煮ヌる餅モチとぜんさい
 餅モチといふハ善哉餅ゼンサイモチとて長崎唐人ナガシキ彼カハ省板シヤウバンと出デして
 賣ウ賣マと梅村ウメムラ載筆サイヒツ子シ神在餅カミナリモチと書カべきよしいつハあふ
 〇或人ナニカノヒト曰イハレ七月中元靈祭ナニカノヒトの染シメを徒タラシよ海川ウミカハに流ナし捨スハ
 せんあしシとぐクくは路頭ミチガタの乞モリ西モリ又興キヨウへクくクんクと
 信シの施セ餓鬼ガクあクんクがし

陸稻



白田稻

野稻

岡稻

早稻

岡穂

本朝食鑑○俗に陸と云ふあり

陸稻

六書故○淵鑑類函稻性宜水亦有同類而陸種者謂

六月至九月乃獲

早稻

早占

占城禾

要錄

黑穀米

論格物

占稻

本艸

雷稻

西事

尖米

黄米

以上

類藁梅子綱目子占城稻と云ふ稲の一名と云ふハ浮世
 農書及爾雅翼等と考つて稲と云ふハ本角ある

蕃名 アシケルレイスト

岡稻

ハビ

皇孫瓊々杵尊襲の高千穂峯へ天降玉

ひし時深霧にがたへし晦蒙し此稻穂とてお撒まひ

りり芒さく又も宜^カ野^ノ細^ノの^ノ子^ノ編^ノあり
 唐^{カラ}之^ノ芒^ノさく^ノ稗^ノも大^ノ
 あり又早^ノ之^ノあり野^ノ細^ノの^ノ子^ノ編^ノあり
 粘^ノり^ノあり^ノ映^ノ稲^ノふ^ノして^ノ洋^ノ米^ノ白^ノく^ノ此^ノ之^ノの^ノと^ノ極^ノる^ノ地^ノハ^ノ二^ノ三^ノ
 月^ノの^ノ交^ノよ^ノも^ノう^ノう^ノ白^ノ沙^ノハ^ノ馬^ノ糞^ノ或^ノハ^ノ美^ノ肥^ノと^ノほ^ノや^ノ
 能^ノ翻^ノし^ノ粗^ノ糲^ノと^ノ調^ノ合^ノ一^ノ畝^ノハ^ノ一^ノ升^ノと^ノる^ノの^ノ積^ノく^ノは^ノ前^ノは^ノ麦^ノ粟^ノ
 と^ノお^ノれ^ノく^ノ漱^ノと^ノ畦^ノ溝^ノと^ノた^ノて^ノ合^ノ土^ノと^ノ畚^ノ入^ノ入^ノ是^ノ一^ノ掬^ノハ^ノ
 ハ^ノ前^ノ入^ノて^ノ土^ノと^ノ掩^ノと^ノる^ノも^ノり^ノ一^ノ畝^ノと^ノ一^ノ升^ノと^ノけ^ノと^ノえ^ノハ^ノ一^ノ升^ノ
 ツ^ノ又^ノ撮^ノ撒^ノの^ノの^ノは^ノ大^ノと^ノ一^ノ畝^ノハ^ノ二^ノ撮^ノと^ノり^ノと^ノ云^ノ塚^ノと^ノ
 ハ^ノ種^ノ子^ノと^ノま^ノせ^ノと^ノる^ノ肥^ノ土^ノと^ノ後^ノと^ノ一^ノ畝^ノハ^ノ一^ノ升^ノと^ノり^ノと^ノ云^ノ塚^ノと^ノ
 一^ノ區^ノハ^ノ撒^ノと^ノる^ノと^ノる^ノの^ノ分^ノ量^ノと^ノ○^ノ早^ノ野^ノ稻^ノと^ノ土^ノ地^ノの^ノ暖^ノ頂^ノ
 ち^ノ次^ノと^ノ撒^ノ入^ノし^ノ時^ノ候^ノの^ノ速^ノは^ノ從^ノふ^ノも^ノり^ノ草^ノ取^ノ中^ノ未^ノを^ノ丁^ノ宜^ノ
 とも^ノ及^ノつ^ノし^ノ○^ノ地^ノ道^ノハ^ノ茶^ノ一^ノ畝^ノ土^ノと^ノ掩^ノの^ノ新^ノ地^ノと^ノ喜^ノむ^ノも^ノり^ノと^ノ

農^ノ野^ノの^ノ種^ノ草^ノと^ノお^ノ返^ノし^ノ土^ノも^ノも^ノり^ノも^ノり^ノ積^ノ果^ノ火^ノと^ノを^ノ燒^ノて^ノ
 灰^ノと^ノま^ノし^ノと^ノる^ノも^ノり^ノ一^ノ二^ノ年^ノと^ノら^ノぬ^ノて^ノ出^ノせ^ノも^ノり^ノし^ノと^ノ後^ノ
 ハ^ノ地^ノと^ノ休^ノめ^ノ易^ノて^ノい^ノく^ノ一^ノ天^ノ工^ノ開^ノ物^ノ云^ノ土^ノ脉^ノ堅^ノ緊^ノ者^ノ宜^ノ耕^ノ
 隴^ノ壘^ノ塊^ノ壓^ノ薪^ノ而^ノ燒^ノ之^ノ埴^ノ墳^ノ鬆^ノ土^ノ不^ノ宜^ノ也^ノ或^ノ云^ノ凡^ノ早^ノ稻^ノと^ノい^ノく^ノ
 地^ノハ^ノ水^ノ田^ノと^ノい^ノて^ノハ^ノ水^ノと^ノ又^ノ畠^ノと^ノい^ノて^ノハ^ノ溼^ノ氣^ノと^ノい^ノて^ノ也^ノ
 横^ノと^ノも^ノり^ノ宜^ノし^ノと^ノら^ノぬ^ノも^ノり^ノ真^ノ稻^ノより^ノと^ノ猪^ノと^ノい^ノて^ノ
 宜^ノの^ノも^ノり^ノと^ノい^ノて^ノあり^ノと^ノら^ノぬ^ノも^ノり^ノ山^ノ國^ノ水^ノ國^ノと^ノい^ノて^ノ神^ノ稻^ノ
 べき^ノ事^ノあり^ノ是^ノハ^ノ農^ノ書^ノ所^ノ謂^ノ占^ノ城^ノ稻^ノ云^ノ北^ノ地^ノ水^ノ源^ノ頗^ノ少^ノ陸^ノ地^ノ
 沾^ノ溼^ノ處^ノ宜^ノ種^ノ此^ノ稻^ノと^ノあり^ノと^ノら^ノぬ^ノも^ノり^ノ凡^ノハ^ノ高^ノ仰^ノ下^ノと^ノい^ノて^ノ
 い^ノも^ノり^ノ利^ノ不^ノ利^ノと^ノ擇^ノぎ^ノて^ノハ^ノ遂^ノと^ノ取^ノ宜^ノあり^ノと^ノら^ノぬ^ノも^ノり^ノ○^ノ



凡苗二三寸ナリも淺ナリころクサヤカヒ時より耘ツカヒ好シて美シヒマ作ルは
 一糞ナリ十分水ナリと澆ツク々し肥ナリるれハ葉ナリのシ茂ナリて穂ナリあリど又
 早ナリやばぬと澆ツク々るナリ僻ナリ造ナリりテホキ遊ナリりテロキの地ナリハナリあリどし
 勤ナリて土ナリおシのいセよホのおハまレゆリやうナリやナリまナリあリど
 穫ナリ収ナリハナリあリの福ナリのシ導ナリとシ向ナリし○農書全書曰ナリ野稻ナリのシ種ナリと水
 浸ナリハナリあリと二三ナリ日ナリおシてナリあリる日ナリはナリあリくナリのシしハ
 らくナリとシてナリ反ナリ肥ナリとシ用ナリおシてナリ横ナリ筋ナリとシ涼ナリくナリきナリりナリあリのシ耐ナリ是ナリに
 とシにシしナリくナリまナリさナリ土ナリとシあリるナリしナリ
種麥ナリ治ナリ地ナリ畢ナリ豫ナリ浸ナリ一ナリ宿ナリ然ナリ後ナリ打ナリ潭ナリ下ナリ子ナリ用ナリ艸ナリ灰ナリ和ナリ水ナリ澆ナリ之ナリ毎
鋤草ナリ一ナリ次ナリ澆ナリ糞ナリ水ナリ一ナリ次ナリ至ナリ於ナリ三ナリ脚ナリ秀ナリ矣ナリとシあリるナリ加ナリ解ナリ述ナリは
種草ナリ○凡ナリ野稻ナリとシ種ナリ滋ナリるナリ但ナリ今ナリまナリてナリ味ナリ為ナリくナリ加ナリやナリし

の時^{カシキ}に^{ハシキ}懸^{ハシキ}賃^{ハシキ}とく^{ハシキ}し^{ハシキ}納^{ハシキ}る^{ハシキ}あり
今俗に唐に干あじ 又舶来
書ハ修字あり
 の種^カ子^カ唐^カと^カおし^カ赤^カと^カは^カし^カり^カふ^カもの^カ何^カも^カ存^カ名^カカ^カ伊^カ登^カ
 知^カ是^カ々^カの^カ大^カ冬^カ米^カ也^カと^カし^カる^カは^カと^カえ^カ且^カ何^カの^カ所^カ乃^カ赤^カ米^カと^カ混^カし
 て^カ統^カて^カ大^カ唐^カ米^カと^カし^カ唐^カ米^カと^カい^カふ^カて^カ占^カ城^カ稻^カと^カ混^カ濁^カと^カい^カふ
 の^カは^カ播^カざ^カる^カの^カも^カし^カき^カり^カ大^カ唐^カ米^カハ^カ大^カ冬^カ米^カの^カ混^カ字^カあり
 南^カ産^カ志^カ引^カ閩^カ中^カ記^カ云^カ秋^カ種^カ冬^カ熟^カ曰^カ晚^カ稻^カ歲^カ一^カ熟^カ者^カ曰^カ大^カ冬^カ本
 州^カ時^カ珍^カ云^カ秬^カ似^カ稷^カ而^カ粒^カ少^カ始^カ自^カ閩^カ人^カ得^カ種^カ於^カ占^カ城^カ國^カ其^カ熟^カ最
 早^カ六^カ七^カ月^カ可^カ收^カ今^カ此^カ方^カ一^カ舶^カ來^カと^カい^カふ^カの^カ一^カと^カい^カふ^カ大^カ冬^カ米^カ一
 二^カ種^カよ^カこ^カど^カは^カ滅^カ葉^カ里^カと^カ稱^カと^カ閩^カ種^カと^カり^カ獲^カ當^カり^カ又^カ一^カ種^カ唐^カ
 之^カと^カ稱^カと^カる^カもの^カは^カ葉^カ菰^カと^カい^カふ^カと^カく^カ長^カ大^カと^カい^カふ^カて^カ實^カ多^カし

凡て野稻よほしり

此^カもの^カ水^カ陸^カ二^カ種^カあり
陸稻ハ 又^カ稷^カ米^カと^カ一^カ類^カと^カい^カふ^カて^カ米

赤^カき^カもの^カと^カ紅^カ玉^カと^カい^カふ^カて^カ茎^カ穀^カ並^カに^カ常^カ稻^カ子^カ符^カ佛^カあり^カ但^カ生

芒^カ穎^カ極^カて^カ赤^カき^カ耳^カ
按和名鈔引廣志赤穰稻多々との或曰

米^カ稻^カ蟬^カ鳴^カ稻^カ字^カの^カ為^カ何^カと^カ其^カ白^カ米^カ稻^カ子^カ對^カへ^カい^カふ^カ農^カ人^カハ^カその

苗^カと^カい^カ知^カり^カ葉^カ列^カと^カい^カふ^カに^カ拔^カ去^カと^カい^カふ^カ又^カ之^カ米^カハ^カ葉^カ細^カく^カ短

く^カ最^カ柔^カ軟^カと^カい^カふ^カて^カ生^カ粒^カ小^カく^カ出^カし^カ多^カハ^カ世^カと^カい^カふ^カし^カ偶^カ々^カ何^カと^カ

の^カも^カ短^カく^カ軟^カあり^カ又^カ赤^カ白^カ兩^カ種^カ何^カも^カ白^カき^カもの^カも^カ多^カく^カ芒^カ

く^カ稻^カ米^カと^カも^カに^カ白^カし^カ或^カハ^カ稻^カハ^カ淡^カ紅^カと^カい^カふ^カて^カ米^カの^カも^カ白^カと^カ何

里^カ并^カ之^カと^カ白^カ之^カ米^カと^カい^カふ^カ○^カ凡^カ乾^カ磨^カと^カ懸^カ磨^カとの^カ實^カあり^カ乾

磨らハ穀とお落ヤシマク磨ルルルあり蒸磨ハ穀と俵
子裏水よ漬し瓶あて蒸て稗と去りくるよて其製造の
ちぐらみく其性味割桑大よ奪きり○此よの早中晩及
糯の種族あり三月中苗代よ耐つくる也率其種穡の時
節ハ常稲よ異あるも○此よのハ稗稲よよりしかつが
内瘠土乃停田よと極るよのされハ四月の後前よ浸
種ナハハみまてハ苗代とかがど昂よ実播して稍白芽
と出と耐つくるあり其耐て莠いるの法ハ常とおれ
しく既子種撒ふんとくる前けさよりその田土と干
乾し湯土よ肥感ハ馬糞と晒しいと細やうにかき碎き

粉のこくくして白沙よ種子と播きやうこと麦粟う
るよのとし○凡田一畝よハ種子一升の積めして畚の
ごとく畚よ入て三指一撮ふして六寸指よ撮つては
あり又長手の肩袋よ盛て双のよととく種と撮り三
尺ちよもあさるに投撒するよ概疏の差多く基の押
の整るるぶく耐耐ありその敏あるもよよは塊
とつらして擲棄るよとし是之農夫よ熟のわざあり○
早稲ハ毛實とつらよの完あり三月中に耐耐七月初よ
收りくるなり
せふく糲米共
中稲一名赤やばしよ
とくよ蓋大冬の新あるは是洋米の種あり又横川米

り 梶山なりなり 晩私ハ大さばしとも云世く糲
赤米赤赤赤 ○大稻赤私赤ハ南海球美島赤よ生赤る赤ふ赤米赤みりて粒
 完赤太し味赤よ赤き赤り赤け赤もの赤為赤田赤よ赤り赤る赤よ赤り赤く
厚地赤よ赤育赤る赤よ赤き赤ハ反赤て赤よ赤り赤何赤く赤も赤く赤天赤生赤の赤異
 種赤多赤り赤○糲赤私赤ハ赤晚赤稲赤多赤し赤短赤く赤粒赤も赤し赤○糲赤私赤ハ梅赤子赤と
 つ赤もの赤の赤あり赤糲赤て赤も赤米赤粒赤赤赤く赤餅赤子赤傲赤して赤も赤も赤も赤赤赤
とも赤珍赤品赤多赤や赤り赤け赤もの赤本赤南赤島赤の赤中赤米赤國赤の赤多赤多赤り赤此赤島
 米赤完赤ぶ赤り赤し赤も赤名赤の赤負赤ぶ赤る赤も赤も赤い赤ち赤も赤る赤し
此もの赤稗赤莖赤穂赤房赤完赤晚赤が赤ゆ赤多赤よ赤颶赤風赤多赤と赤吹赤ハ赤も赤も赤く赤実
 殖赤偃赤ふ赤て赤一赤粒赤も赤丸赤細赤も赤き赤も赤多赤し赤れ赤も赤別赤乾赤み赤と赤二

日針赤と赤油赤と赤和赤燥赤と赤葉赤燻赤と赤似赤る赤もの赤を赤砧赤と赤し赤双赤手
子莖赤本赤と赤把赤て赤お赤敲赤ハ赤も赤も赤く赤落赤ふ赤と赤小赤麥赤と赤ぬ赤れ赤し赤乃赤熟赤
よて赤穀赤殻赤磨赤る赤も赤乾赤磨赤る赤も赤も赤も赤り赤炊赤て赤硬赤し赤と赤く
もも赤白赤和赤ハ赤糲赤米赤よ赤考赤ら赤但赤冷赤造赤ハ赤堅赤く赤粗赤粒赤の赤み赤と赤く
強断赤と赤傷赤ぬ赤し赤又赤酢赤及赤燒赤耐赤よ赤造赤る赤も赤常赤稻赤子赤相赤お赤れ赤し赤○
蒸磨赤と赤穀赤と赤所赤も赤よ赤漬赤お赤と赤一赤七赤日赤汗赤泉赤の赤流赤み赤き赤ふ赤ハ
くら赤め赤て赤漬赤ち赤り赤泥赤沼赤一赤漬赤も赤の赤け赤も赤つ赤き赤ハ赤宜赤し赤と赤ら赤く
とも赤ぬ赤り赤ぬ赤り赤て赤湖赤奥赤あり赤又赤大赤川赤あり赤も赤漬赤魚赤と赤も赤ハ赤糲
物好赤と赤笑赤て赤湖赤奥赤の赤智赤一赤ま赤り赤て赤蒸赤も赤あ赤り赤げ赤二赤三赤日赤汗
儀計赤と赤詣赤は赤も赤も赤あり赤一赤ま赤り赤て赤蒸赤も赤あ赤り赤げ赤二赤三赤日赤汗
りあ赤げ赤て赤大赤瓶赤よ赤入赤て赤蒸赤も赤あ赤り赤蒸赤氣赤の赤臭赤あ赤る赤と赤度
とし赤糲赤も赤て赤丸赤お赤し赤又赤二赤三赤日赤を赤あ赤ら赤し赤何赤げ赤又赤二赤三赤日

偷める者ハ武士さへ短兵長丈の者浩ふる業と頼とし
遊藝の遊は遊と流しとおひ思は出家頭陀もて梵嫂
と拘持て恥とも心つらぬハ淺ましきまつけても肉土
ハ度地あれハ小蛇くの住還さへ斯方の四五倍その
人おさまで盗賊不義の者頼ハ又斯方の十倍おとも
るつら先尋常の者も人の物を攘まぬハ稀おてそれと
恥ともおとも心却て攘まれらると沖断と名ふ此一
ても千倍の悪風俗ハ推する一し女もとも途中摺り
まハまき深さる因親中も遣はるる義と鎖節不
して向の家へ昇着て鎖と啓き火事強動ふとの町ハ第

一ハ女と片付ぬハ盗去るは又女子ハ幼より脚と本綿
よて縛ゆめると歩行と不自由ふして淫奔せぬるあり
其上男子がちよきて女子少りれハ貧漢ハ終身妻と有
おともゆも大抵衣通と事として一生とるはさう清
の代も替りておこりの柔弱なる風俗と戒懲て平生武
藝とあつし試場よてハ皆露又猿負と伎さやると
云志くれハ吾人何様大相する遊もて七志剣勝負と
ハ何るまし又麦穂の食物よてと唐福ハは格あるまし
我身の不埒さへあつれは一生妻好持ぬともお
ましかつお好地よ生おしハ時よ取て身の幸ふるとや

魯



稻孫

比

通知

和名鈔○即稻孫也尾張ノ

比古波衣

新撰字鏡按ノ比古ハ曾孫ト比々古トツラ

訓ガ古言梯ノ細枝アリコハ和名鈔ノ前漢天文志註ノ関

中謂桑榆孽生為葆禾野生曰旅々ハ字鏡ノ穀再生ト

比古波衣ト訓ヤ和名鈔ノ木葆亦訓トおれノ去取ノ

曾於比稻通例引手蓋比通知ノ轉アト或云引ハ比古

引手ノ訛アト蓋冷毛洞常アノ地冬ト樹蔭原

政全書云烏口稲色黒而能水与寒又謂之冷水結稻之下

品ト人梁日次紀獲稻後再生又生ノ沖繩方言昂復生

度生トリ再稻

ハ俗意アリ

成形圖說卷之十六

稻孫 廣雅稻已割而復抽曰稻孫 再熟稻 唐書開元十

四民月令養生要集等亦同 再熟稻 九年揚州奏

再熟稻 一千八百頃 再熟稻 謂之再熟稻亦謂之再

其粒與常稻無異 再熟稻 謂之再熟稻亦謂之再

籾 金洲 白香秣 以上閩書南產 再生稻 字彙○秋王

秩韻會毛氏云秩本再生稻刈 而重出後先相繼故借為秩序字

蕃名 ヘルグルーイエンデレイスト

比通知ハ乾土より水田乾て復すると云ふなり和名鈔

よハ自生稻の部ハ收りて復すると云ふ今集ハ秋りたる田ハ

あつたつちの種ハあぬハ昔と今はこれに秋もやぬり

と云ふも採りてはのちハあきしく再生稻也 歌什ハ

のちち稲のちちはあきしくは河あき後採集ハふもして

あつたつちの種ハあぬハ昔と今はこれに秋もやぬり

と云ふも採りてはのちハあきしく再生稻也 歌什ハ

のちち稲のちちはあきしくは河あき後採集ハふもして

あつたつちの種ハあぬハ昔と今はこれに秋もやぬり

と云ふも採りてはのちハあきしく再生稻也 歌什ハ

のちち稲のちちはあきしくは河あき後採集ハふもして

あつたつちの種ハあぬハ昔と今はこれに秋もやぬり

と云ふも採りてはのちハあきしく再生稻也 歌什ハ

のちち稲のちちはあきしくは河あき後採集ハふもして

あつたつちの種ハあぬハ昔と今はこれに秋もやぬり

夏四月遣田部連^{トビ}於掖玖^{トビ}二年秋九月田部連等至自掖
玖三年春二月掖玖人^{トビ}歸化^{トビ}云々田部八田地民戸^{トビ}と掌^{トビ}
の官あり換田戸定民籍の事舒田部連掖玖在在と約
一年是時より南島の田地戸數を檢校し貢賦の事因
て約せしとハんる其三年春二月掖玖人歸化宣子朝
貢の始と云所謂掖玖亦々の流求あり事詳南島凡奄
美島より以南^{トビ}沖繩^{トビ}までハ九月霜降の節^{トビ}稲田の苗代
と下して臘月或ハ正月より早苗と植後には扱せうる毎
子^{トビ}稻科^{トビ}のゆきへ水芋と挿添あり是地勢はよく稲の
うれば滋^{トビ}はととて多量に春に熟と交てより日

日^{トビ}長茂^{トビ}五月には成熟して刈取^{トビ}根より五六寸の所
と切^{トビ}めば^{トビ}は^{トビ}流^{トビ}科^{トビ}より引^{トビ}ぬ^{トビ}乃^{トビ}播^{トビ}生^{トビ}立^{トビ}て秋^{トビ}晩^{トビ}の^{トビ}次^{トビ}二^{トビ}度^{トビ}刈^{トビ}
と^{トビ}多^{トビ}り^{トビ}の^{トビ}多^{トビ}し但又^{トビ}と^{トビ}毎^{トビ}年^{トビ}の^{トビ}是^{トビ}沖^{トビ}繩^{トビ}と^{トビ}限^{トビ}り
と^{トビ}流^{トビ}田^{トビ}稼^{トビ}と^{トビ}て^{トビ}その^{トビ}種子^{トビ}多^{トビ}ふ^{トビ}と^{トビ}ハ^{トビ}流^{トビ}て^{トビ}多^{トビ}量^{トビ}と^{トビ}多^{トビ}り
是^{トビ}より^{トビ}天^{トビ}武^{トビ}紀^{トビ}乃^{トビ}多^{トビ}祢^{トビ}島^{トビ}と^{トビ}り^{トビ}の^{トビ}即^{トビ}流^{トビ}求^{トビ}する^{トビ}と^{トビ}知^{トビ}は^{トビ}べ
き^{トビ}と^{トビ}多^{トビ}り^{トビ}今^{トビ}按^{トビ}は^{トビ}凡^{トビ}い^{トビ}ふ^{トビ}一^{トビ}南^{トビ}島^{トビ}と^{トビ}は^{トビ}して^{トビ}掖^{トビ}玖^{トビ}多^{トビ}祢^{トビ}島^{トビ}と^{トビ}呼^{トビ}
ぶ^{トビ}往^{トビ}者^{トビ}皆^{トビ}經^{トビ}歴^{トビ}の^{トビ}由^{トビ}る^{トビ}路^{トビ}と^{トビ}れ^{トビ}ハ^{トビ}也^{トビ}登^{トビ}ハ^{トビ}南^{トビ}島^{トビ}人^{トビ}川^{トビ}辺^{トビ}郡^{トビ}七
島^{トビ}と^{トビ}指^{トビ}て^{トビ}土^{トビ}噶^{トビ}喇^{トビ}と^{トビ}つ^{トビ}ク^{トビ}と^{トビ}ら^{トビ}し^{トビ}土^{トビ}噶^{トビ}喇^{トビ}ハ^{トビ}孝^{トビ}德^{トビ}紀^{トビ}の^{トビ}始^{トビ}
て^{トビ}吐^{トビ}火^{トビ}羅^{トビ}國^{トビ}と^{トビ}云^{トビ}え^{トビ}齊^{トビ}明^{トビ}紀^{トビ}の^{トビ}ハ^{トビ}觀^{トビ}貨^{トビ}邏^{トビ}國^{トビ}と^{トビ}也^{トビ}都^{トビ}貨^{トビ}邏^{トビ}人
と^{トビ}も^{トビ}云^{トビ}は^{トビ}し^{トビ}或^{トビ}本^{トビ}は^{トビ}墮^{トビ}羅^{トビ}人^{トビ}と^{トビ}注^{トビ}し^{トビ}又^{トビ}續^{トビ}紀^{トビ}の^{トビ}ハ^{トビ}度^{トビ}感^{トビ}島^{トビ}と
は^{トビ}七^{トビ}島^{トビ}の^{トビ}中^{トビ}の^{トビ}寶^{トビ}島^{トビ}の^{トビ}と^{トビ}云^{トビ}旧^{トビ}音^{トビ}と^{トビ}傳^{トビ}へ^{トビ}つ^{トビ}ふ^{トビ}七^{トビ}島^{トビ}ハ^{トビ}是^{トビ}德
島^{トビ}へ^{トビ}往^{トビ}者^{トビ}の^{トビ}海^{トビ}路^{トビ}由^{トビ}る^{トビ}所^{トビ}と^{トビ}れ^{トビ}ハ^{トビ}也^{トビ}齊^{トビ}明^{トビ}紀^{トビ}注^{トビ}或^{トビ}本^{トビ}墮^{トビ}羅^{トビ}ハ
蓋^{トビ}今^{トビ}七^{トビ}島^{トビ}中^{トビ}の^{トビ}平^{トビ}島^{トビ}あり^{トビ}此^{トビ}流^{トビ}求^{トビ}と^{トビ}指^{トビ}して^{トビ}多^{トビ}祢^{トビ}島^{トビ}と^{トビ}呼^{トビ}は^{トビ}
成形圖說卷之十六
四十三

吐火羅も度感も嘗てしりおきてさて其再熟の稲
 也初生の種も食ふもはるみても南島の稲ハ唐山乃
 種のたよくも脆弱ゆへて斯方此種は次勿し山海經
 云交趾國有一歲再熟之稻異物志云交趾稻圖書編云界
 稻十月種次年四月熟是仲漣の種とせれし蓋炎徼偏熱
 乃志りしむる新志より尚ふも是ら次又按通雅云
 多三枚隋書婆登國有月熟之稻一月一熟○廣志云天竺
 稻歲四熟想ふも一月一熟一歲四熟の稻信あり
 りも強と食ふ夫西土にて酒と造は精よりされハ成
 りて多し而斯方ハ此種を用ふ晉陶淵明彭澤令其
 酒宜用大師古造粉宜用小師古是西土方葉入との
 土の種ハ酒と造るも増えり
 皆種あり斯方産科等を用ゐるものハ稻孫あり種を用れ
 て汲むも是も由て親ハ西土の種ハ斯方の種も擬べく
 其種ハ斯方の種孫も準ふし又和蘭人其地産の鳥類
 と瘠しぬる船中糲米の粉と餌とに而唯雄の嘗り
 けく羸弱を尾ありヒホソリる者ハ斯方の種米と餌ハ思
 小肥健也斯方の糲米と餌ハ其熱氣の盛も堪ど粘滞
 て肥よむりとも又生兒の視依も糲稻と豫知子と産
 芽養衣も包と添て増ると古法とに

氣象ゆゑは料田もよべて秣稻と種て糲て酒も造るの
 了見あり又天工開物云南方酒皆糲米所為又稻紀云釀
 酒宜用大師古造粉宜用小師古是西土方葉入との
 土の種ハ酒と造るも増えり
 皆種あり斯方産科等を用ゐるものハ稻孫あり種を用れ
 て汲むも是も由て親ハ西土の種ハ斯方の種も擬べく
 其種ハ斯方の種孫も準ふし又和蘭人其地産の鳥類
 と瘠しぬる船中糲米の粉と餌とに而唯雄の嘗り
 けく羸弱を尾ありヒホソリる者ハ斯方の種米と餌ハ思
 小肥健也斯方の糲米と餌ハ其熱氣の盛も堪ど粘滞
 て肥よむりとも又生兒の視依も糲稻と豫知子と産
 芽養衣も包と添て増ると古法とに

於呂加於比稻和名鈔○

野立生稻

稽亦作稻和名鈔引唐韻自生稻也○稗音棹集韻未稽
生也○稗音說文稻今年落來年自生謂之稗○後漢
光武紀嘉穀作嘉野旅生注寄也不因播種而生唐書馬燧傳
大曆四年兵亂後大旱田中生稽木人頗便之注稽未再生
也唐書開元十九年揚州奏稽生稻二百一十五頃再熟
一十八百頃此自生與孫野稻吳志嘉禾三年由
為禾興縣○唐地理志滄州本魯城乾符元自生稻唐韻
年生野稻水穀十餘頃夔觀創民就食之自生稻見上
○通雅揚州生稽稻自生稻也○
稗字彙補今年稻災來年自生也

蕃名 ウイルブレイスト

おろかたひハ即自生也凡播種と述べて野生ハ

この草カヤスキ多し茅カヤスキ草カヤスキ少しハ稽カヤスキと考ふるハあり本藩露

島嶽の自然稻カヤスキと云ハ草カヤスキハ草カヤスキ少しハ輓チカゴ近安永八年十月

綱目大隅郡檳榔嶼カヤスキ炎上ハて海中ハ五の新嶼カヤスキと漏出カヤスキ

始檳榔嶼頂の東南兩岨と稱カヤスキ峽ありカヤスキ湖ありカヤスキ白カヤスキ
他カヤスキと云ハを白カヤスキ一町カヤスキ幅ありカヤスキ湖ありカヤスキ湖ありカヤスキ
遊カヤスキと云ハを白カヤスキ一町カヤスキ幅ありカヤスキ湖ありカヤスキ湖ありカヤスキ
以カヤスキ雨カヤスキハ流カヤスキきカヤスキどカヤスキ沙カヤスキ流カヤスキハカヤスキ火カヤスキのカヤスキ子カヤスキ乃カヤスキまカヤスキ火カヤスキをカヤスキ火カヤスキをカヤスキ火カヤスキをカヤスキ
果カヤスキしてカヤスキ朝カヤスキ日カヤスキ味カヤスキ新カヤスキ雨カヤスキ間カヤスキよりカヤスキ火カヤスキをカヤスキ火カヤスキをカヤスキ火カヤスキをカヤスキ
方カヤスキ射カヤスキ叶カヤスキ又カヤスキ當カヤスキのカヤスキ己カヤスキ午カヤスキのカヤスキ刻カヤスキ為カヤスキ中カヤスキのカヤスキ井カヤスキ患カヤスキ淋カヤスキ瀝カヤスキ所カヤスキをカヤスキ選カヤスキ
出カヤスキ又カヤスキ海カヤスキ水カヤスキ葉カヤスキをカヤスキ子カヤスキ變カヤスキはカヤスキ是カヤスキ火カヤスキ變カヤスキ乃カヤスキ微カヤスキ也カヤスキ凡カヤスキ山カヤスキ上カヤスキ火カヤスキとカヤスキ發カヤスキはカヤスキ
朔望カヤスキのカヤスキ交カヤスキとカヤスキりカヤスキ蓋カヤスキ海カヤスキ潮カヤスキのカヤスキ候カヤスキをカヤスキ候カヤスキとカヤスキ云カヤスキ今カヤスキ事カヤスキをカヤスキ因カヤスキてカヤスキ
保カヤスキ於カヤスキ是カヤスキ檳カヤスキ島カヤスキ及カヤスキ比カヤスキ隣カヤスキのカヤスキ地カヤスキ沙カヤスキ反カヤスキ障カヤスキ積カヤスキてカヤスキ堆カヤスキ出カヤスキとカヤスキ七カヤスキ尺カヤスキ許カヤスキ田カヤスキ畝カヤスキ
川谷カヤスキ悉カヤスキくカヤスキ埋カヤスキ没カヤスキしカヤスキ白カヤスキ沙カヤスキ渺カヤスキ々カヤスキ海カヤスキ耳カヤスキ時カヤスキにカヤスキ白カヤスキ沙カヤスキ原カヤスキ頭カヤスキ子カヤスキ茅カヤスキ草カヤスキ
自生カヤスキしカヤスキ其カヤスキ末カヤスキ子カヤスキ各カヤスキ稻カヤスキ實カヤスキとカヤスキ結カヤスキひカヤスキ類カヤスキとカヤスキ壘カヤスキ又カヤスキ新カヤスキ嶼カヤスキ北カヤスキ上カヤスキもカヤスキ播

